



御影北だより

平成30年度 2月号

神戸市立御影北小学校

<http://www2.kobe-c.ed.jp/mkk-es>



声の力 言葉の力

今年のNHK大河ドラマは、「いだてん〜東京オリムピック噺〜」です。日本人初のオリンピックマラソンランナー金栗四三と共に、御影が生んだ偉人、講道館柔道の

創始者である嘉納治五郎が登場しています。嘉納治五郎は、金栗四三が参加した1912年のストックホルムオリンピックへの日本初参加に尽力した人物であり、「日本体育の父」と呼ばれています。御影公会堂の地下に、嘉納治五郎記念コーナーがあります。嘉納治五郎の像は全国各地にあるのですが、柔道着を着た姿は、この御影公会堂の銅像だけだそうです。

少し前の話ですが、11月18日(日)、神戸マラソンに参加しました。神戸マラソンには給水ボランティアとして2回参加したことがあったのですが、今回初めて当選して、少しずつ練習をしていました。マラソン1週間前の音楽会の次の日、仕上げのトレーニングとして生まれて初めて30km走りました。その日は最後まで走ることができず、途中で歩いてしまったので、完走できるか不安な気持ちで当日の朝を迎えました。

スタート後、7〜8分/km…予定していたペースで進み、体調も良く、「行ける!」と感じていました。14km付近でトイレへ…これも予定通りだったのですが、大混雑で15分のロス!これは、想定外!そのため、次の関門で、閉鎖2分前まで追い込まれてしまったのです。ここが、最大のピンチでした。そのとき、力になったのが、沿道のみなさんの途切れることのない大声援です。「あと5分」「絶対間に合うよ」「ここであきらめたらもったいないよ」など、後ろから後押しされるような感覚でした。7分/kmまでペースを上げて、なんとか関門通過…その後も、声援に後押しされて、予定を少し上回るペースで走ることができました。須磨の30km地点からは、未知の領域…早歩き程度のスローペースなので、息は上がっていないのですが、足が動かない。なんとか9分/kmをキープして、最大の難所、ハーバーランドから浜手バイパスへ。ここも10分/kmで走り(歩き)切り、ポートアイランド市民広場のゴールには、笑顔でゴールインすることができました。

次の日の朝会で、子供たちに次のような話をしました。

とても気持ち良く42.195km完走することができました。どうして完走できたかという、走っている間、応援に来ていただいた見知らぬみなさんが、ずっと声をかけ続けてくれたからです。マラソン実行委員会の発表では、60万人の人が応援してくれたそうです。「がんばれ」「ナイスラン」「その調子」「あともう少し」…ずっと声をかけ続けてくれました。それがなかったら、走り切れていなかったかもしれません。

42.195kmで、「声の力、言葉の力」の大きさを実感しました。これからも「がんばっているね」「すばらしい」「ありがとうございます」…激励、感激、感謝の言葉を子供たちにたくさん伝えていこうと改めて思いました。

子供たちの最大の応援団である保護者の皆様、地域の皆様。3学期(新学年への0学期)も、あと7週間…いよいよ1年間のしめくくりの時期です。ラストスパートを迎える子供たちに向けて、マラソンの沿道の皆様のような大きなご声援を、どうかよろしくお願ひします。

平成30年度 御影北小学校 教育目標

「仲間と共に たくましく 生きる子」

目指す子どもの「すがた」(教育努力目標)

㊟すんでする子 ㊦んばりぬく子 ㊧すけあう子

校長 岡村 耕治